

中央委員会の一問一答から

下からの闘い、おこそう

〇〇闘争を真の大衆闘争へ

先日開かれた中央委員会は、二審、三審をへて〇〇闘争を再確立するために多くの意見が出されたが、その一部をここに紹介する。

二、三審をうける理由は?

【山本委員】二、三審をうける理由は明確にせよ。その後の具体的な闘いの方針はとうとうしているのか。

【田上委員】いままでの〇〇闘争は全力をふりこぼってきたというが、三池内部でさえ、全体のものになっていない。これをどう反省するか。

組合側といえん医師の判断で、原状復帰可能な者、軽作業ならされる者、療養継続が必要なる者にわかれる。

労働省や会社はあくまでも坑内にさげよとするだろうが、われわれは組合側といえん医師の判断にしたがって、治っていない患者はあくまでも治っていないとして闘いぬく。

とくに七月の闘いを通じて、〇〇闘争は全国の労働者のなかにある程度根をおさした。

二、三審をくぐらすにこのままいくことは、総評・炭労の闘い体制をつくるうえから問題を残す。これが二、三審をうける理由である。

われわれの要求はあくまでも解雇制限、前收補償、完全治療をたたかいていくことであり、この基本線をつらぬく。

内部体制が十分であることは十分反省しなければならないが、内部には意識的にも無意識的にも真実をかくしてきたという事実はない。

今後の方向は?

【大西委員】治っていない患者はあくまでもかかてゆくとき、資金はどうするの?

【井上委員】いままでやってきたことは、デモやストだけで「なにかやろう」という気持ちが空まわっている。

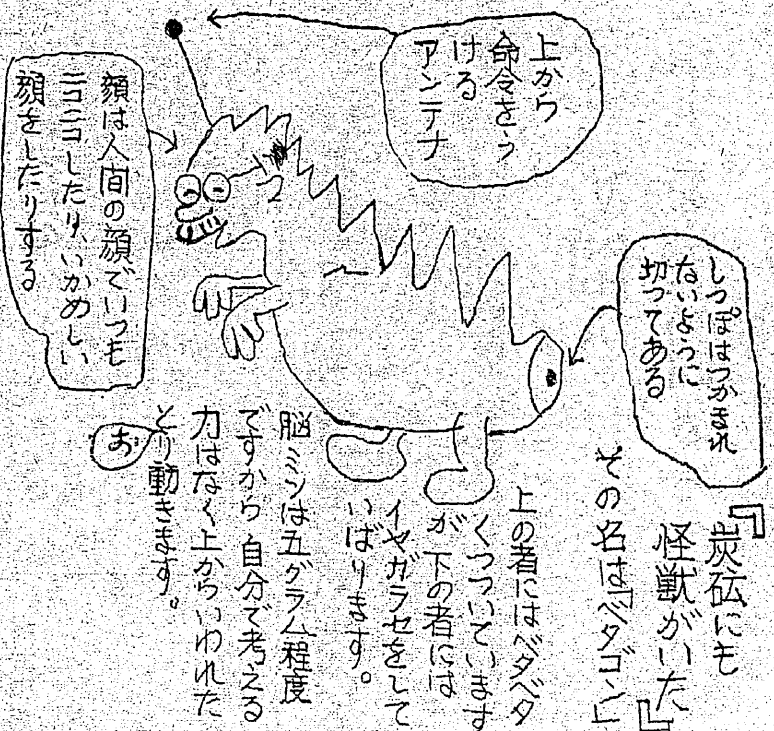
——この〇〇闘争はかつてなく重大な長期な闘いである。総評や炭労の組織的カンパなどはすでに限界にきているので、これ以外にはない。

職場新聞「スパーク」から

「アクセサリ」だった消火器

この責任、だれがどうする? 災のとき待機しながらはじめて聞

九月二十八日の第二次三川大変一かされた火災情報では、原因は電



職場新聞「よあけ」(宮浦支部第3分会)から紹介しました。各職場新聞は、働く者の教智をしばって、創意豊かな紙面をつくり出すため、がんばろう!

災害撲滅にストで

民間単産会議が声明

総評の民間単産会議(議長・原口金敏委員長)は二十七日、東京・渋谷の全国金属本部で第三回代表者会議を開き、秋学期末闘争にあたって、激増する労働災害にたいして「職場でのたまたかいを産業別全体のたまたかに強め、ストライキを含む断固としたたたかいを

気品座かららしい……とあつた。坑外坑内にしる原因不明の火災の火源がほとんど電気関係とされるほどに電気施設はつねに火災やガス炭じん爆発の原因になる可能性があるので。

だから坑内の電気品座や油置場には消火器をそなえるように保安規則に定められている。

また再び変圧器座に設置(五十脚上層五十脚)するという、でたらめが行なわれていた。

電気分会では、係長にこのことについて抗議する係長は「そんなことは絶対にない」とはじけはうぞうぞういたが、事実がかくしきれないといふや、全消火器を一斉にとりかえてしまった。

いままで坑内にあった消火器の中から、ノズルが詰まっているのや、ガスボンベからどうしてもガスが出ないものなど使用不能な消火器が統々とあらわれた。

電気係長は保安教育の中で消火器の使用方法を教えたが、かんじんの消火器が不良品では使えない。

口先では立派なことだが、その中味は実にお粗末だ。赤い木箱におさめられた消火器はたんなる「アクセサリ」だったのだ。

宮浦坑にも電気による事故が多おきている。電気による事故は大災害につながるのだ。

働く者全員の監視を強く訴え(宮浦支部職場新聞「スパーク」第六号より)

満場の感動よぶ

「三池の闘い」大牟田公演



第3部のフィナーレ

合唱詩劇「三池の闘い」の大牟田公演は、社会同現地闘争本部、〇〇患者を守る青年の会の主催で十月二十七日、大牟田市公会館で

おこなわれた。

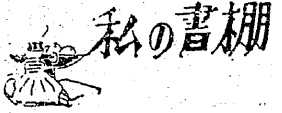
公演は〇〇闘争の一段の発展をめざしてとりこまれただけに、会場は超満員の入場者であつた。坑底すわり込みをえがいた第三部を中心に、大きな感動をあたらせた。

なお、こんどは来年一月の「三池にまなぶ会」での公演をはじめ三月の宮崎・佐賀公演などが予定されている。

「はじめて〇〇問題の真実がわかった」という声が感動をこめて語られた。

生活との関連で……

詩集の読み方



最近、詩の全集「化」とはいえないという見解も聞がつかうと企画されるわけだ。だが、詩は出版されていまをかく一人として、わたしは詩集を多く読まれることを好ましいとす。「日本詩人全集(新潮社)」「日思集」(中央)の詩集をどう読んだらいいのかわからず、公論社)などのほか。

「愛の詩人」などといわれますが愛を感傷的、ロマンチックにうたっているだけでなく、当時の封建的考え方を打ち破って新しい人間性の謳歌を打ち出した点に意義があるので。

集さる「愛の詩集」などという単行本も出版され、詩集ブームといわれまわります。この数年だ、という固定観念があります。米「文学全集ブーム」に味をしめて、詩人、作家がなにを訴えているかをよくたしかめることが「商品化」ではあっても「大衆」はたしかに島崎藤村は

「愛の詩人」などといわれますが愛を感傷的、ロマンチックにうたっているだけでなく、当時の封建的考え方を打ち破って新しい人間性の謳歌を打ち出した点に意義があるので。

「三井化学の大牟田工業所といえは、太平洋戦争のとき毒ガスなどの軍需物資をつくらっていた企業体として、だれ知らぬものはない。もちろん三井は、そのような生産で大もうけをやったものだ。

現場では爆発事故も一方、三井化学の「二四五TDP」を生産する現場では保安サポのため溶接中の火花がタンクからもれるガスに引火して、一人が火傷を負うという事故が発生した。

三井化学の大牟田工業所といえは、太平洋戦争のとき毒ガスなどの軍需物資をつくらっていた企業体として、だれ知らぬものはない。もちろん三井は、そのような生産で大もうけをやったものだ。

現場では爆発事故も一方、三井化学の「二四五TDP」を生産する現場では保安サポのため溶接中の火花がタンクからもれるガスに引火して、一人が火傷を負うという事故が発生した。

三井化学で戦術物資を生産

ベトナム侵略に協力する三井

三井化学の大牟田工業所といえは、太平洋戦争のとき毒ガスなどの軍需物資をつくらっていた企業体として、だれ知らぬものはない。もちろん三井は、そのような生産で大もうけをやったものだ。

現場では爆発事故も一方、三井化学の「二四五TDP」を生産する現場では保安サポのため溶接中の火花がタンクからもれるガスに引火して、一人が火傷を負うという事故が発生した。